

令和5年度 佐倉市立小竹小学校 学校経営方針

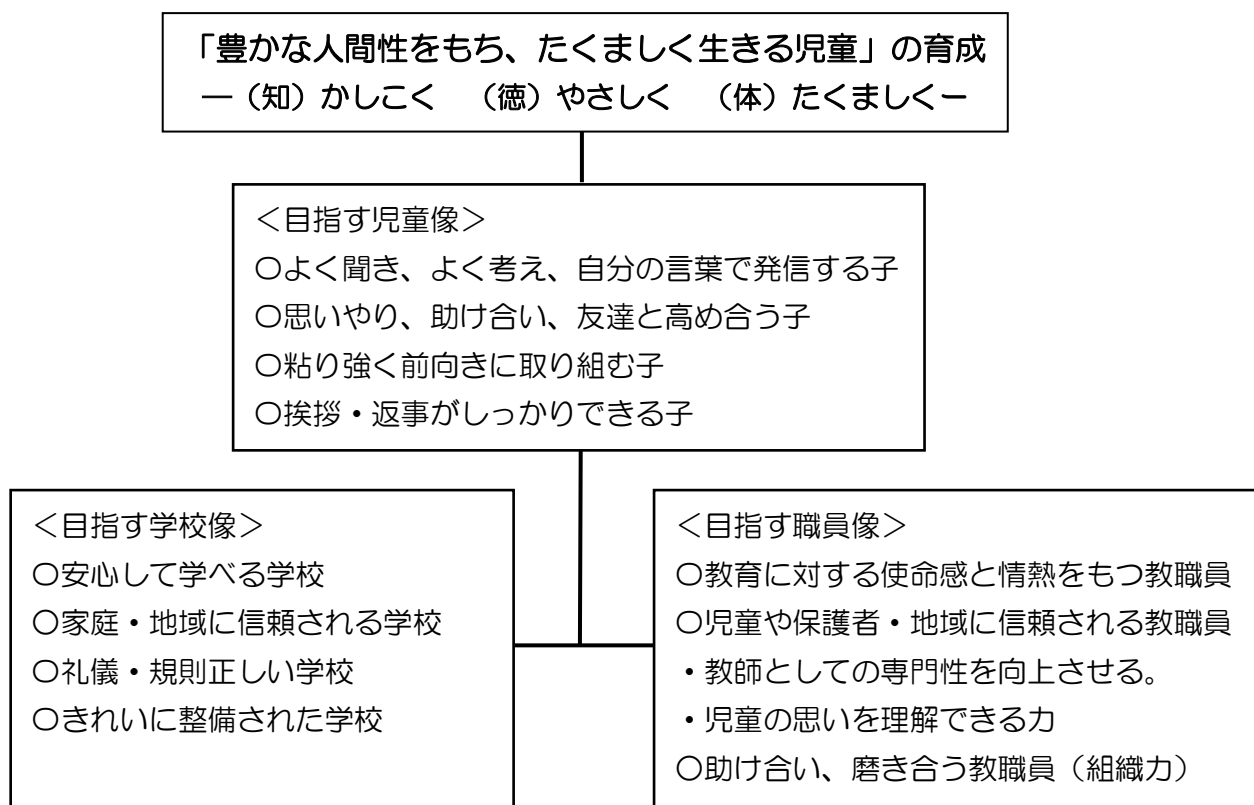
今、学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、学校だけではなく、社会全体で子供の育ちを支えていくことが求められています。学校への協力を惜しまない地域に恵まれていることもあり「地域に支えられ、地域とともに歩む学校」を基本とし、保護者・地域と連携・協働し、小竹小学校の子供たち一人一人が「できた・がんばれた」といった満足感、充実感、学ぶ喜びなどを味わえる学校を築いていきたいと考えます。

1 学校教育目標

将来の変化を予測することが困難な時代を前に、社会の変化に受け身で対処するのではなく、自らの人生を切り拓き、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことができる力、すなわち『予測困難な時代において生き残るための力』を付けることと考えます。

また、自分だけでなく、他者を思いやることができる気持ちが、社会の中でよりよく生きていくためには必要なことです。

そこで、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指し、以下の目標を設定します。



学校生活は子供たちがたくさんの人と関わる場所です。友達、先生、更には地域の方もいます。たくさんの人と関わることは、いろいろな考え方に触れ、経験し、そのことが自分の考え方や生き方を深めていくこととなります。学校で関わる人々と『みんな なかま』なんだ、という気持ちで目標達成に向かうようにしていきます。

2 学校経営方針の重点

知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性をもち、たくましく生きる力を身に付けるという目標の達成のため、3つの重点を設定します。

(1) 確かな学力の定着

学校生活において大半が授業時間です。一人一人が満足感や充実感、学ぶ喜びなどを味わえるため、教職員は楽しくわかる授業の実践を努めていきたいです。学びには、個々に知識を吸収する学び（インプット）と、他者と関わりながら自分の考えを発信する学び（アウトプット）があります。従来の講義型学習、子供たちの自身が問題解決する問題解決学習、地域や専門家と関わる体験活動など、様々な学びの充実を図っていきたいです。それには、個々を生かすきめ細かな指導を心がけ、指導法、指導体制の工夫を図るための教材研究や研修を行っていきます。そして、楽しくわかる授業にするために、児童の学習習慣・学習規律の徹底を図ることも重要と捉えています。

(2) 生徒指導の充実

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことです。学校教育目標を達成する上で重要な機能を果たし、学習指導と並んで学校教育に重要な意義をもつものと言えます。一人一人の児童の理解に基づく、積極的できめ細かな生徒指導に努めていきます。

(3) 信頼される学校づくり

学校教育は保護者と地域の皆さまの理解と連携があってこそ成り立つものです。教職員は専門職としての自覚をもち、常に資質向上に努めることで、子供たちの可能性を伸ばすことができるようにしていきます。熱意、誠意、創意をもった教育活動の実践ができるよう、小竹小職員が同じベクトルで一丸となって教育活動を行うとともに、家庭や地域との連携を深め、信頼される学校づくりを推進していきます。